

<今回>299回目 2021年8月13(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p335、平子説、喜田説 より

<前回>298回目(21-7-26)出席者 9名

資料(21-07-26-1)前回のまとめ(清水)

(21-07-26-2)短里表示圏(清水)

(21-07-26-3)海賦(清水)

(21-07-26-4)朝日新聞記事 隋書倭国伝の鼓笛出迎えは北方的(高山)

A 報告 八王子の「古代史セミナー2021の倭の五王」と特別講演者河内春人氏について紹介があった。五王について従来説のような日本書紀の天皇家の人との比定はしない。またできない。意味がないと考えている学者である。考古学からの視点を中心に論を張るようだ。稻荷山鉄剣の銘文をワカタケル大王と読み雄略に比定する現代の古代史学会の基礎をなしている学説の紹介か。

B資料 2)中国東北部と朝鮮半島の領域表示参考図。3)魏志倭人伝と同時期の内容の紹介。4)2007年発行朝日新聞の切り抜き記事の紹介。隋書倭国伝の中国使節出迎えに鼓笛を鳴らしてとの表示があるが、これは北方的と指摘して600年遣隋使が日本書紀に取り上げられていないことに注意喚起している。各参加者から活発な意見が交わされた。(史書には都合の悪いことは書かないことが多々あるとした論調は公文書改竄の先例。)

C読書 隣国資料にみる九州王朝

1)磐井の反乱と滅亡 誰と誰が死んだのか。日本書紀の最も難解な箇所である。継体紀の末尾、継体25年3月天皇病甚だし、丁未に天皇、磐余玉穗宮に崩ず。時に82, 12月に丙申の朔庚子(5日)に藍野陵(現在は今城塚説が有力、宮内庁指定は太田塚古墳)に葬る。

2) (A)或る本に曰く、天皇28年歳次甲寅に崩ず。(B)而を此処に25年辛亥に崩というのは百済本記を取って文を為すなり。(C)その文に言えらく太歳辛亥の3月に師(軍)進みて安羅に至りて乞壬城を屠る。是月に高麗其の(王)安を弑す。(D)又聞く日本の天皇及び太子皇子俱に崩薨りぬといえり。(E)此れに由りて言えば辛亥の歳は25年に当たる。後に勘考する者これを知らむ。

(3)要約すると①継体崩御の歳には2説ある。

②或る本(日本側の本であろう)には継体28年に崩じたとある。

③ところが百済本記の説を採用して本文では継体25年に崩じたとした。後の世の人は良く調べて考えてほしい。

4)3年のずれ問題 安閑天皇は534年甲寅に即位。(継体が亡くなる直前に枕辺に呼んで、譲位したという)

5)継体天皇は唯一人で亡くなっている。太子、皇子と俱に死んでいない。(日本書紀に書いてあることに明白に異なるのに、史書として百済本記を採用したか)(書き手は書きたくなかったが、上司が採用を命じた?)

次回日程 2021-8-23日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—9-10日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—9-20日(月) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第9会議室